

別 紙

第59回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分 科 会 名	第2分科会	演題番号	206
題 名	静岡県ひきこもり支援センターの居場所支援について ～居場所版静岡式ひきこもり評定尺度の得点変化から見た利用者の変 化～		
所 属	静岡県精神保健福祉センター 琉球大学人文社会学部		
氏 名	猪又準庄 末永佑弥 藤田登志美 内田勝久 草野智洋		
要 旨 (簡 潔 に)	<p>静岡県は2013年に静岡県ひきこもり支援センターを設置し、2016年9月からひきこもりに悩む本人への支援として居場所を県内4か所開設、2020年12月には県内6か所に拡大した。</p> <p>ひきこもりの居場所を利用する本人（以下「利用者」という）の居場所利用開始後の変化を把握するために、「居場所版静岡式ひきこもり評定尺度（以下「変化の指標」という）」により、利用開始から半年ごとに評定を行っている。</p> <p>2016年9月～2022年3月までの利用者の内、1年以上居場所を継続利用している35人を対象に、初回利用時の変化の指標の得点と、1年経過後の得点を比較した。また、変化の指標のどの項目において変化が大きいかについて、初回利用時、半年経過時、1年経過時、2年経過時の得点を比較し、分析した。</p> <p>結果、初回利用時の変化の指標合計得点の平均値よりも、利用開始1年後得点の平均値の方が、統計的に有意に高かった。また、雑談に参加できる、自然な笑顔が見られる、意見を言える等対人面を含めた変化が利用者に見られた。利用開始半年で次のステップを考え始める方は4割弱、実際に次のステップにつながる方も3割弱いることが分かった。</p> <p>本研究から、ひきこもりの居場所が、利用者にとって安心できる場所として機能し、利用者のエネルギーがより高まり、次のステップにつながっていく好循環があると推測された。今後も、居場所スタッフ等が利用者に寄り添い伴走する支援を行い、ひきこもりの居場所を安心、安全な場として機能させていくことが必要である。</p>		